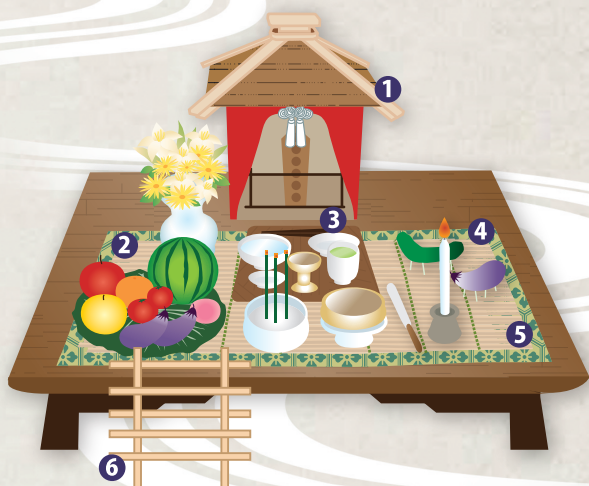


❖ 初盆の迎え火

(8月6日～7日) ※地域によって日にちが異なります。

迎え火は、故人の霊が迷わず帰ってこれるよう、道しるべになると言われています。自宅の門口にほうろくに芋殻(おがら)・たいまつを焚いたり、盆提灯を下げます。南大阪の地域では、8月6日から8月7日に行う事が多いです。



用意するもの

新盆(初盆)用の白張提灯

初盆は故人の霊が初めて帰ってくるお盆なので、迷わぬように軒先や仏間に新盆用の白張提灯を吊るします。地域によっては納入りで代用します。



迎え火・送り火用の焙烙皿

お盆明けには、家に迎えた精霊の足元を照らし、気を付けて帰ってもらうよう、送り火を焚きます。



初盆の飾り付け

- 1 新タナ…経木又は位牌を入れます。
- 2 ハスの葉…季節の野菜や果物などをお供えします。お盆特有のお供えとして水の子(ナスやきゅうりをサイの目に刻み洗い米をまぜた物)をお供えしたりします。
- 3 お膳…煮物・そうめんなどの精進料理。お茶(お水)などをお供えします。
- 4 牛・馬…ナスとキュウリにおからで4本足をつけ牛と馬を作ります。
- 5 まこも…机の上(新タナの前)に敷きます。
- 6 はしご…おからで作ります。

❖ お盆の迎え火

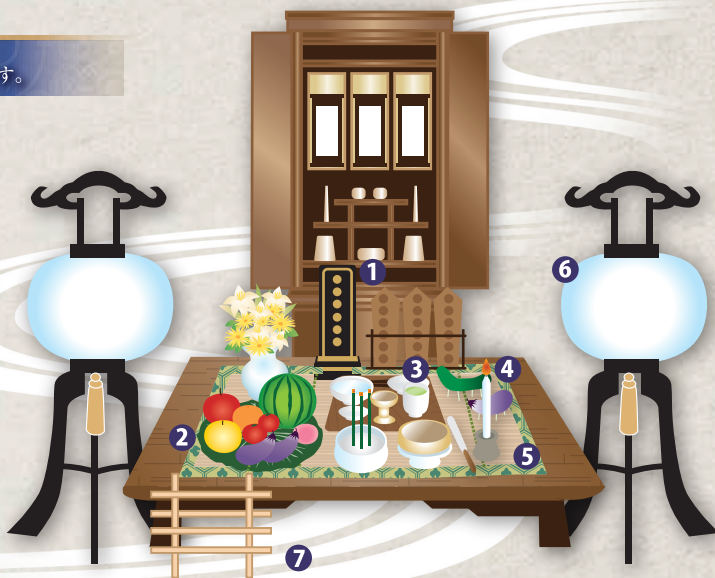
(8月12日又は13日) ※地域によって日にちが異なります。

13日以降は初盆の方と、これまでのご先祖様の両方をおまつりします。宗派、地域によっては13日までに初盆の方をおまつりし、13日以降はご先祖様をおまつりするところもあります。

用意するもの

提灯

焙烙皿



お盆の飾り付け

- 1 位牌・経木を置きます。
- 2 ハスの葉…季節の野菜や果物などをお供えします。お盆特有のお供えとして水の子(ナスやきゅうりをサイの目に刻み洗い米をまぜた物)をお供えしたりします。
- 3 お膳…煮物・そうめんなどの精進料理。お茶(お水)などをお供えします。
- 4 牛・馬…ナスとキュウリにおからで4本足をつけ牛と馬を作ります。
- 5 まこも…机の上(精霊棚の前)に敷きます。
- 6 提灯…葬儀のときのちょうちんを使われる方が増えていますが本来、葬儀の時のちょうちんは、故人の霊が安らかに成仏することを願い送り出すもので、盆ちょうちんは故人や霊やご先祖様をお迎えするもので意味が違います。
- 7 はしご…おからで作ります。

❖ 送り火

(8月15日～16日) ※地域によって日にちが異なります。※20日頃や8月末の地域もあります。

ご先祖様に無事にお帰りいただける様に、送り火を迎え火と同様の形で焚きます。おまつりの仕方、期間は宗派や地域によって違いがあります。詳しくはお寺様にご確認下さい。